

「日本消化器病学会 支部女性医師の会」の発足と期待

一般財団法人日本消化器病学会
理事長 下瀬川 徹

日本消化器病学会の2016年の会員数は33,649人を数え、そのうち女性会員は4,506人、13.4%を占めます。2014年と2015年の比率はそれぞれ12.8%、13.1%でしたから、女性会員は少しずつではありますが、確実に増加していると言えるでしょう。支部別に見ますと、四国支部が17.3%と最も高く、関東支部が16.4%、低いのは北陸支部の8.2%、甲信越の9.5%ですが、全国的にはほぼ10%前後となっています。大多数の支部で、過去3年間の女性会員比率は増加傾向が見られており、消化器疾患の診療、研究に興味を持たれ、この領域を専攻する女性医師が全国的に増加する傾向がみられます。あまたある選択肢のなかで、内科系専門領域としては対象疾患が広く、患者数も多く、内視鏡手技など高度かつ肉体的にも決して楽とは言えない消化器内科を専門に選ばれる勇気ある女性医師が増えていることを嬉しく思っています。消化器診療は、自己完結型であり、患者さんの訴えや身体所見から病名を推定し、超音波検査や上下部内視鏡検査を自ら行い、CTやMRI画像を読影し、場合によっては病理所見まで自分で確かめ、適切な診断のもとに治療を選択して実践する、大変やりがいのある診療領域です。研究に関しても、疾病の病因や病態研究はもとより、感染症学、栄養学、代謝学、臓器相関など、その対象は広く多様です。女性医師には多くの活躍の場があり、皆様には消化器診療や研究の面白さを若い医師に広く伝えていただき、女性医師がこの領域にさらに多数参入されるよう期待します。

一方では、日本消化器病学会の支部評議員以上に占める女性会員の比率は4.6%にとどまっており、会員全体に占める女性会員比率の13.4%と比べてもかなり低いのが現状です。つまり、女性会員の声が中央に伝わりにくく、支部や本部の運営に要望が反映しにくい構造になっているのではないかと危惧します。また、支部評議員以上の女性比率は、支部によってばらつきが顕著で、高いところは7.3%ですが、1.3%と極めて低率の支部もあり、女性会員の活動の場に不公平があるのではないかと懸念します。このような状況は速やかに改善される必要があります。消化器疾患の診療や研究に興味を持ち、この専門性を通して社会に役立ちたいと消化器病学を専攻された女性医師が、高い理想と目的を持ち続け、達成感を感じながら診療や研究活動を実践できる環境整備が大切です。また、そのような環境を実現するための女性会員の具体的な提案、大きな声が聞こえるような仕組み造りが求められます。

一昨年7月に日本消化器病学会理事長を拝命してまざ行ったことが、運営体制の変革です。従来は、理事長のもとに、19名の理事がそれぞれ委員会を持ち、それ以外に7つの諮問委員会がありました。このような体制は、各理事が比較的自由にそれぞれの委員会活動を展開できる利点がある一方、委員会同志の連携が不十分で効率も悪く、事業の過剰拡大など欠点も多々みられました。何よりも、各委員会の要望が理事会全体で共有しにくく、意思決定に時間がかかりました。そこで、総務室、学会活動推進室、研究推進室、国際化推進室の4つの室を設け、19の委員会のうち特に連携を要するものを機能的にまとめ、各室には副理事長を置く体制に改めました[図1]。4名の副理事長と役員等候補者銓衡委員会、財務委員会、倫理・医療事故、新専門医制度担当の理事あわせて8名の理事からなる学会運営委員会を組織し、重要事項を審議し、将来像をデザインする運営体制としました。目標は学会としての意思決定の迅速化と、各委員会の意見を速やかに拾い上げ、対応することにあります。また、女性医師のキャリア形成支援の重要性から、諮問委員会であった「女性消化器医師支援委員会」を「キャリア支援委員会」に名称変更するとともに常置委員会に格上げし、支部長会議、卒後教育委員会、専門医制度審議委員会とともに学会活動推進室のなかに配置しました。これら4委員会には互いに連携した活動が必要と考えたからです。

女性医師が消化器専門医としてキャリアを形成していくうえで大切なポイントは、診療や研究の現場における課題のピックアップと対応と考えています。勿論、学会の対応だけでは不十分であり、多面的な対策が必要でしょう。ただ、まずは皆様の声を集約し、支部長に伝える仕組みが大切と考え、昨年12月の支部長会議で「日本消化器病学会 支部女性医師の会」を提案しました。支部長会議の杉山担当理事のご尽力により、本年3月11日の定例理事会で承認され、6月13日時点ですでに5支部で委員長および委員が決まり、活動を開始しています。残りの5支部でも委員長や委員の選考が進んでいます。また、支部幹事会には「女性医師の会」の代表にも出席していただき、支部活動に女性会員の意見を反映していただけるよう、支部長あてに依頼状をお送りしています。このような取組みの成果の一つとして、9月16日に開催された定例理事会では、支部例会における託児所開設費用の予算申請が支部長会議とキャリア支援委員会から協同提議され、速やかな承認を受けています。

以上のべましたように、日本消化器病学会は女性医師支援の新たな取組みを開始しました。新専門医制度の行方など多くの課題に対して、女性医師の視点からもご意見を頂戴し、学会運営に反映できればと考えています。消化器病を専門とする女性医師の皆様の力になれるよう努力しますので、宜しくお願いします。